

2011年1月31日

中部地区英語教育学会 紀要 第40号 抜刷

Reprint.

Journal of the Chubu English Language Education Society, 40

現代の大学入試問題に、文法訳読式授業はどれだけ対応できるか
— 高校英語授業改革プロジェクト発表その1 —

**To What Degree can Grammar-Translation Classroom Cope
With Contemporary College-Entrance English Examinations?**

関 静乃、加藤 和美、茶本 卓子、永倉 由里
三浦 孝、亘理 陽一

**SEKI Shizuno, KATO Kazumi, CHAMOTO Takako, NAGAKURA Yuri,
MIURA Takashi, WATARI Yoichi**

現代の大学入試問題に、文法訳読式授業はどれだけ対応できるか
—高校英語授業改革プロジェクト発表その1—

To What Degree can Grammar-Translation Classroom Cope With Contemporary College-Entrance English Examinations?

キーワード：入試、授業形態、文法訳読式授業

関 静乃・加藤和美・茶本卓子・永倉由里・三浦 孝・亘理 陽一

SEKISHizuo・KATOKazumi・CHAMOTOTakako・NAGAKURAYuri・MIURATakashi・WATARIYoichi

1. 研究の動機

日本の学校英語教育で英語運用力を高める努力の必要が叫ばれて久しい。しかし生徒の願いや教師の努力にもかかわらず、多くの高校では、依然として文法訳読式授業やドリルの補習依存の英語指導が主流となっている。

高校英語教育を、単なる大学受験対策から、本来のあるべき姿（豊かな人格の形成・コミュニケーション能力育成・異文化理解・国際的視野の養成）に引き上げようとする努力は、一貫して自覚的教師たちによって行われてきている。しかし、こうした努力にいつも立ちはだかるのは、「大学入試が依然として文法訳読式中心である以上、生徒を志望大学に合格させるには、文法訳読式授業を行わざるをえない。」という「現実論」である。この「現実論」は必ずしも裏づけデータがあって流行しているのではない。

本来の英語教育を高校、特にいわゆる進学高校において実現しようとする際には、①本来の英語教育を行ってなおかつ入試に対応できることを証明する、②この「現実論」そのものが入試の事実に基づいているかどうかを検証する、といった側面的支援が必要である。本研究は、こうした側面的支援として、②の検証を行うことを目的としている。つまり、「生徒を志望大学に合格させるには、文法訳読式指導が最も効率的である」というbeliefが、今日の大学入試の現状に照らして正しいかどうかを検証することが本研究の目的である。

この検証のために、本研究は高校教師7名・大学教師7名・学生2名から成るプロジェクトを組み、全国33の国私立大学の2008・2009年度大学入試英語問題の出題内容を調査し、「大学入試問題で文法訳読式授業に合致した出題が何%あるか」を調査してきた。ただしこの調査は入試のあるべき姿の議論や、各校入試問題の優劣判断には立ち入らない中立的調査である。

2. 研究の方法

2.1 分析対象校

入試問題分析校は各地方の著名大学で入試問題が入手できるものを抽出した。具体的には北海道大・東北大・東京大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・九州大・東京工業大・上智大・早稲田大・慶応大・明治大・立教大・青山学院大・中央大・法政大・日本大・東洋大・駒沢大・専修大・南山大・中京大・名城大・愛知大・関西大・関西学院大・立命館大・同志社大・京都産業大・近畿大・甲南大・龍谷大といった国立・私立大学33大学である。国立大は前期試験問題を、私立大は原則として入学定

員が最も多い学部的一般入試問題を分析し、文系学部と理系学部がある場合、入学定員が最も多いそれぞれの学部の入試問題を別個に分析した。このようにして08、09年度の合計91本の入試問題を分析した。

2.2 分析項目

分析には、図1の分析表を用いた。図内横列の General は分析データの整理に必要な項目で、通し番号・大学名・学部名・年度・入試種別・解答時間・大問番号を記入した。

General					Readability			内容の分類			Questions												
通し番号	大学名	学部	年度	入試種別	解答時間	大問	語数	段落数 (または 会話 ターン 数)	Flesch Reading Ease (FRE)	Flesch- Kincaid Grade Level	スタ イル	分 野	ト ピック	設 問 番 号	指 示 文 は 何 語 か	検 索 範 囲	出 題 形 式	解 答 言 語 は 何 語 か	解 答 形 式	選 肢 の 数 (ま たは 語 数 制 限)	A 型 か ?	B 型 か ?	

図1. 使用した分析表

Readability は問題中の各文章の語数・難易度を識別する項目である。大問ごとの語数・字数、段落数・ターン数、Flesch のリーダビリティー公式¹⁾ (FRE) を用いた Reading ease と Kincaid Grade Level を算出した。Reading ease とは、数値が 100 に近づけば近づくほど易しく、60 以下は難しいとされている。Kincaid Grade Level とは、文章の読解に必要な教育年数をアメリカの学年段階で表示したものである。内容の分類は文章・会話文の内容を分類する項目で、テキストが学術（論説文の内、事実の記述が中心）・エッセイ（論説文の内、意見の展開が中心）・物語・会話・その他のどのスタイルであるか分類し、どんな分野（科学・文化・歴史・社会等）であるかについても分類した。

Questions は各設問の出題形式を具体的に分類する項目で、1問ごとに、「出題文・指示文が日本語か英語か」、「受験者がその問題を解くために読まねばならぬ範囲（図表・語句・節・一文・複数文・全文）」、「出題形式」（次節で説明）、「解答に要求されているのが日本語か英語か」、「解答形式（記述、選択、抜き出し等）」、「解答に対する語数制限あるいは選択肢数」、「A型/B型の判定」を記入した。

なお上記の「出題形式」では、英文和訳、部分和訳、和文英訳、writing、要約、タスク、文法・語法、同意語句、語義、error correction、書き換え、並べ替え、空所補充、段落整序・補充、聞き取り、発音、真偽判断、指示関係確認、内容確認の19カテゴリーの内、どれに該当するかを分析した。

2.3 A型問題の定義と典型例

本研究では、文法訳読式授業に合致する入試問題のタイプを、便宜上「A型」と名づけた。A型問題とは、長い文脈の理解を必要としない英文和訳・文や語句の書き換え・並べ替え・和文英訳・同意

¹⁾ Reading Ease=206.835-(1.015×α)-(84.6×β), (α=文あたりの平均語数, β=単語あたりの平均音節数)。リーダビリティーについて、詳しくは清川(2000)を参照されたい。

語句選択・短文の真偽判断・孤立した語の発音の相違を問う多肢選択問題・短文を用いた文法問題等]である。以下に、本調査で確認したA型問題の例を挙げてみよう。

①英文和訳問題例

次の英文 (B) を読み、下線部の意味を日本語で表しなさい。

(B) How we handle our own feelings of impatience, hostility, and anger is a far more powerful example to our children than what we tell them to do with theirs. We don't want to impose our black moods on our children, but neither do we want to pretend that our angry feelings don't exist. In any case, we may as well be honest, for even when we try to cover up our anger, our children sense how we feel. [2008年度 大阪大学 大問1番B]

②和文英訳問題例

次の日本語(a)と(b)を英語に訳しなさい。

(a) 言うまでもなく、ある人にはささいだと思われることが別人にはきわめて重大なことになり得る。
(b) 昨夜おそくおばの家の近くで火事があったので、今朝電話で安否をたずねた。

[2009年度中央大学 2/12, センター併用方式・一般法 大問2]

③並べ替え問題例

A. 次の日本語(1, 2)に相当する意味になるように、それぞれ以下(a~f)の語群を並べ替えて正しい英文を完成させたとき、並べ替えた語群の最初から2番目と6番目にくる語の記号をマークしなさい。

(1) 彼には、日本の新しい風習に順応することが、非常に難しいことだとわかった。

He found it very difficult to (a. himself b. the c. customs d. adapt e. to f. new) in Japan.

*②は省略

[2008年度 関西学院大学 2/3, A方式(3科目型) 文理工 大問5番A]

④同意語句問題例

次の下線部の語句に最も近い意味を持つものを、ア~エの中からそれぞれ1つ選び、その記号を解答欄に書きなさい。

(1) How could you stand by him after he was found guilty?

ア. present イ. rear ウ. bring エ. support [2008年度名城大学 2/1, A(前期日程) F方式(都市情報 法学部) 大問4]

⑤発音問題例

下線部の発音が他の三つと異なるものをそれぞれ一つ選び、その番号をマークせよ。

47 1. care 2. floor 3. pour 4. secure

[2009年度 京都産業大学 大問8]

これらの例のように、A問題は文脈を伴わない孤立した文章内での訳・言語操作・音声学的知識を要求している。仮に長文を伴っていても、A型問題は本文全体の理解や長い文脈の理解がなくともある程度解答可能である。

2.4 B型問題の定義と典型例

一方、コミュニケーションな授業に合致する入試問題のタイプを本研究ではB型と名づけた。具体的には、以下のいずれかに該当するような問題である。

- (1) 多量の英文を短時間で内容を理解し、質問に答えられるような reading fluency を問う。
- (2) 問題の解き方を英語で指示しており、英語による授業参加に対応する力を問う。
- (3) 問題文に直接かかれていない事柄を判断するあるいは、推論する (inference) 力を問う。
- (4) 英文を逐一日本語に訳すのではなく、長文の全体の概要を捉える (skimming) 力を問う。
- (5) 文脈の把握や段落内の構造、段落間構造を把握するといった、深い理解力を問う。

- (6) conversation strategy と方略能力 (対応し応答する力) を試す。
 - (7) 英語を駆使してタスク (非言語的課題) を解かせる。
 - (8) 単に与えられた日本語を英語に変換させるのではなく、受験者の意見を、まとまった内容の英文で表現させるなど、伝達目的を持った writing 力を問う。
- 以下に本調査で確認したB型問題の例を挙げる。

⑥英文への要約と writing の問題例

Question A (この設問の前の英文省略)
Summarize in English the opposing views about global warming from the passage in a paragraph of up to 70 words. You may use words and phrases from the text, but not complete sentences.

Question B
In English, write a 70-90 word paragraph answering the following question:
Do you believe you should make changes in your own life due to global warming?
・ If yes, explain what changes you feel you should make.
・ If no, explain why changes are not necessary.
You may use words and phrases from the text, but not complete sentences.

[2008年度 北海道大学 前期日程 (全学部) 大問3]

上例の Question A では、最初に多量の英文 passage (680 語) を読ませ (本文省略)、次に 70 語以内に要約させている。更に Question B では、英語の指示に従って、passage に関して自分の意見をまとめた英文で書かせている。

⑦日本語への要約問題例

次の英文の内容を、70～80 字の日本語に要約せよ。句読点も字数に含める。

One serious question about faces is whether we can find attractive or even pleasant-looking someone of whom we cannot approve. We generally give more weight to moral judgments than to judgments about how people look, or at least most of us do most of the time. So when confronted by a person one has a low moral opinion of, perhaps the best that one can say is that he or she looks nice - and one is likely to add that this is only a surface impression. What we in fact seem to be doing is reading backward, from knowledge of a person's past behavior to evidence of that behavior in his or her face.

We need to be cautious in assuming that outer appearance and inner self have any immediate relation to each other. It is in fact extremely difficult to draw any conclusions we can trust from our judgments of a person's appearance alone, and often, as we gain more knowledge of the person, we can discover how wrong our initial judgments were. During Hitler's rise and early years in power, hardly anyone detected the inhumanity that we now see so clearly in his face. There is nothing necessarily evil about the appearance of a small man with a mustache and exaggerated bodily movements. The description would apply equally well to the famous comedian Charlie Chaplin, whose gestures and mustache provoke laughter and sympathy. Indeed, in a well-known film Chaplin plays the roles of both ordinary man and wicked political leader in so similar a way that it is impossible to tell them apart.

[2008年度 東京大学 前期日程 (文科、理科1～3類) 大問1 (A)]

上例は、まとまりのある英文 (266 語) を理解した上で、指定の字数内の日本語で要約することを要求している。

⑧タスク解決式問題例

次の案内文と地図を参考にして、下の 22～26 の質問に対する答えとして最も適切なものを①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

Dear friends,
You are cordially invited to a party celebrating Sara's birthday. The party will be held at a Chinese restaurant in town. Get off at the train station, and go out the East Exit, where you can see the river to the right. Walk along High Street. After the post office turn right into Cromwell Road. Don't go straight to Paris Road, as there is construction going on at Paris Road and High Street. At the end of Cromwell Road, you will see Eastfield Park. Then, turn left, and walk until you cross Paris Road. The Chinese restaurant is to the right between a bus stop and a bakery. You can't miss it!

22. Which of the following statements is correct about the train station?
① The East Exit faces a Chinese restaurant.
② The West Exit is in Cornwall Road.
③ You cannot see the river from the East Exit.
④ The West Exit is closer to Ladybug Kindergarten.

(問 23～26 は省略)
[2009年度 日本大学 (商学部) 大問5]

上例はパーティーの招待状と地図を見ながら道順を把握し、課題に答えるタスク型問題である。

⑨段落構成の理解を問う問題例

次の英文の空所に入る最もふさわしい表現を、それぞれ、(a)～(d)の中から一つ選び、その記号をマークせよ。

It's a fact that people judge you by the clothes you wear. So, if you're wearing a T-shirt, when you are taking a job interview, people may think it's not proper. You don't always have to conform, but it's best to dress ().
(a) what you like (b) according to the situation (c) like others (d) by yourself

[2009年度 中京大学 2/10, 一般(前期日程(B方式)) 一般(前期日程(D方式)) 大問2]

上例は、英文を読んで推論する力や段落の構成の理解を要求している。

⑩本文全体の論理展開の理解を問う問題例

次のそれぞれの問いに答えよ。

1. 次のパラグラフの中に文脈に合わない文が一つある。その番号を選びマークせよ。
(1) The nation is aging faster than any other society in recent history. (2) Scientists and economic planners have known about this trend for years. (3) However, it is only recently that it has begun to affect the lives of ordinary Japanese. (4) By 2018, the government has estimated, one in four Japanese will be over the age of 65. (5) By that time, a large number of the elderly will be relying on a very small labor force to provide for them. (6) Recently, a Japanese scientist discovered a new medication for living a longer life. (7) More immediately, the traditional Japanese family is decreasing as young people move away from their parents' homes to seek jobs and lives of their own. (8) Meanwhile, the price and commitment of caring for one's aged parents has been escalating steadily. (9) With a shortage of affordable nursing homes and a lack of home-care services, Japan's silver life is beginning to reveal a very threatening cloud.

2. このパラグラフのタイトルとして最も適切なものを(A)～(D)より一つ選び、その記号をマークせよ。
(A) Important Trends in Japan (B) The Trend of Japanese Labor
(C) The Future of Elderly People in Japan (D) The Future of Young Japanese

[2008年度 甲南大学 2/2, A日程 (知能情報 理工学部) 大問6]

上例は、パラグラフ構成の原理の理解が試されている。

2.5 O型問題について

本研究は、題名にあるように、大学入試問題に占める文法訳読式問題の割合を算出することを主目的としている。そのため、A型問題と、その対極をなすB型問題に集中して分析を行った。A型でもB型でもないものを「O型」と分類したが、その内容分析については今後の検討課題としたい。

3. 分析結果と考察

ここでは、分析全体の量的特徴を整理する。分析は、プロジェクト参加者で数大学ずつを分担して行い、それを集約したものに対して筆者らがクロス・チェックを実施した。91入試問題の概要についての記述統計を表1に示す。なお本論文では誌面の都合上、A型とB型の顕著な特徴のみについて報告する。分析データの詳細はプロジェクトHP (<http://www.ecrproject.com/>) を参照されたい。

3.1 問題文の語数増加の傾向

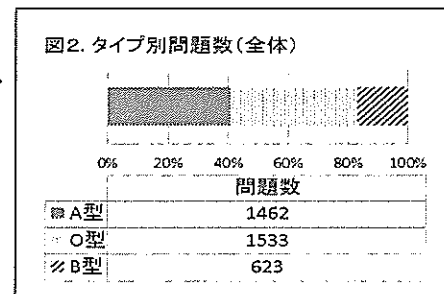
表1でわかるように、全体的にかなり多くの量の英文（問題指示文と出題文）を読ませる出題傾向が確認できた。多い所では早稲田大の理工学部が08・09年とも4,000語程度の英文問題を80分で解かせている。ベネッセ（2009）は大学入試センター試験出題においても英文量が増加傾向にあることを報告しており、国立・私大を問わず、現代の入試は大分量の英文を短時間で読みこなす力を要求している。隅から隅まで一字一句を日本語訳するだけの指導では、これに対処することは困難であろう。

	試験時間	総語数 ^[注]	FRE	小問数	A型問題数	B型問題数
<i>M</i>	83.85	2,109.04	55.62	39.80	16.07	6.82
<i>SD</i>	19.05	815.35	9.81	12.81	9.55	8.27
<i>MAX</i>	140	4246	85.60	62.00	39.00	32.00
<i>MIN</i>	60	767	36.40	10.00	1.00	0.00

表1. 分析した91種の入試問題の全体的出題傾向 [注] 英語による指示文・出題文・選択肢の語数を含む。

3.2 A型問題・B型問題の割合

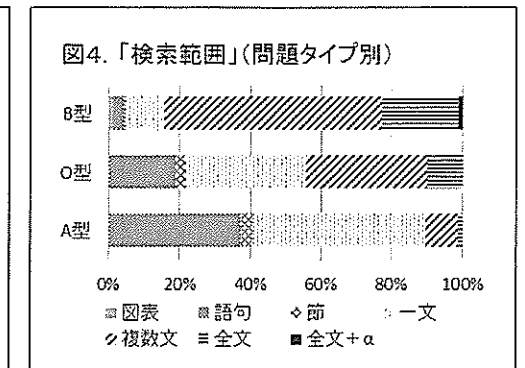
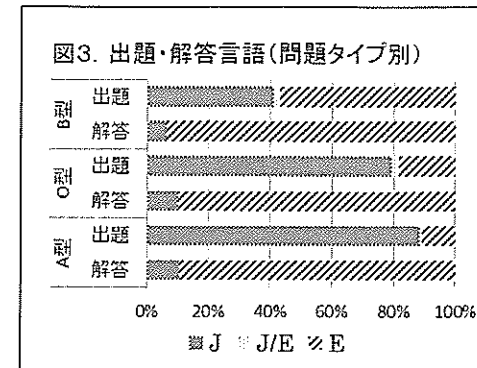
図2は、小問ごとのタイプ（A・O・B）の分布を示している。全体としてはA型問題は40.41%に過ぎず、量的に見るだけでも「生徒を志望大学に合格させるには、文法訳読式授業が最も効率的だ」という主張は当たっていない。更にこのように、傾向の異なる3タイプが出題されている以上、教師が全大学を一括りにして生徒に単一の受験対策を語ることはもはや不適切と言えよう。また、受験産業はこうした現代の英語入試の実態を、進学模擬試験に反映すべきであろう。



3.3 B型問題の特徴

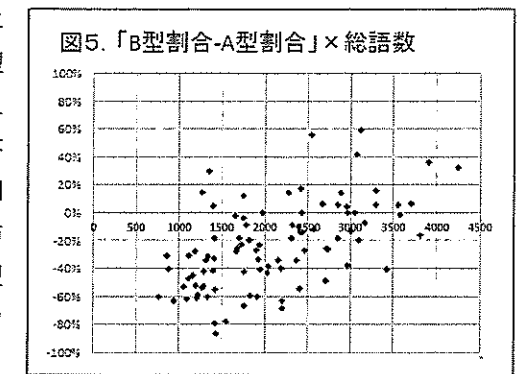
図3は問題タイプ別の出題・解答言語を示している。A・B・O型では全体としては和問英答が主

だったが、B型問題の特徴は、問題指示文が英語で与えられ、それに英語で解答するタイプが主流という点にある。一方、図4は「検索範囲」すなわち「解答を得るために検索することが必要な範囲」の分布を示している。この検索範囲は、筆者らが実際に各問題に解答することによって特定した。A型問題の検索範囲は語句～一文以内が9割、O型でもそれが半数を占める。それに対して、B型問題では語句～一文以内の検索で答え得る問題は2割以下であり、複数文～全文の検索範囲が8割以上を占める。つまり、reading fluencyを問うB型問題では、答えるために複数文から全文の検索を要求することが主流であることを示している。



3.4 B型問題の広がりと言数との相関

次に個々の入試問題に関して、[B型が全小問に占める割合－A型が全小問に占める割合]で「B型度傾向」を算出した。図5は、そうして算出したB型度傾向に総語数（問題指示文＋出題文＋解答選択肢）を掛けた「B型度×語数傾向」の散布図である（ $n=91$ ）。全体としての右肩上がりの分布を示しており（ $r=.57, p<.000$ ）、問題の構成がB型寄りになればなるほど大量の情報を処理する能力が要求されることがわかる。この内「B型度傾向」



が高いものを一覧にしたのが表2である。「B型寄り」に該当しない入試にも、2節の例⑧⑨で例示されたようにB型問題は登場しており、徐々に広がり増えつつあることが推察される。

4. まとめと展望

本研究は限られたサンプルでの分析であり、当然ながらただちに大学全般に適用できるものではない。それを踏まえた上で、分析結果をまとめたい。調査91本の入試問題の内訳を見ると、A型問題が40.41%を占めている（図2）。同時に、その9割方は解答するためにせいぜい数語～一文以内の参照しか必要としていない（図4）。一方B型問題は17.2%を占めており既に無視できない存在である。しかもB型問題は長文で、答えるための検索範囲が広いので、A型よりも配点が高いと推測される。こ

の事実から考えれば、文法訳読式の授業・入試対策のみでは多様で総語数の多い入試問題のごく限られた範囲しかカバーできないことが分かる。今後の研究計画としては、まずは未分析のO型問題の分析を行い、その定義と典型例を作成したい。次いで、生徒の英語運用力と知的・創造的能力と自己表現力を伸ばす授業が、A型、B型、O型の入試問題にどの程度対応できるのかを検証したい。

表2. B型寄りの入試 (B型割合-A型割合 \geq 0)

No.	大学名	系	年度	解答時間	文章・ 会話語数	総語数 (含リスニング)	平均FRE	総問数	B型-A型 の割合
1	早稲田	文	08	90	2,084	3,122	39.68	49	59.18%
2	東京	共	08	120	2,548	2,548 (4,400)	58.97	45	55.56%
3	上智	理	08	90	1,994	3,076	48.00	50	42.00%
4	早稲田	理	09	90	1,632	3,902	63.90	53	35.85%
5	早稲田	理	08	90	1,854	4,246	46.85	52	32.69%
6	一橋	共	09	120	1,277	1,343 (2,038)	37.65	17	29.41%
7	立教	共	08	75	1,702	2,411	57.70	29	17.24%
8	関西	理	09	90	1,946	3,301	58.70	45	15.56%
9	甲南	文	09	70	1,938	2,886	65.45	42	14.29%
10	東京工業	共	08	90	1,265	1,265	55.45	21	14.29%
11	東京	共	09	120	2,245	2,276 (4,141)	59.43	49	14.29%
12	中央	理	08	80	1,538	1,742	56.20	33	12.12%
13	上智	文	08	90	2,059	3,705	39.30	60	6.67%
14	立教	共	09	75	1,777	2,672	58.60	33	6.06%
15	関西	理	08	90	2,335	3,557	64.77	50	6.00%
16	北海道	共	08	90	2,779	2,855	48.24	17	5.88%
17	慶應	文	09	90	2,154	3,302	47.66	55	5.45%
18	一橋	共	08	120	1,336	1,396 (1,852)	57.50	19	5.26%
19	関西	文	09	90	1,838	2,956	61.53	45	4.44%
20	甲南	理	09	70	2,296	3,055	53.93	33	0.00% ^[注]
21	甲南	理	08	70	2,213	2,969	53.70	34	0.00%
22	北海道	共	09	90	2,075	2,426	49.00	17	0.00%
23	龍谷	文	08	70	1,254	1,972	56.40	35	0.00%

[注] No. 20-23はA型問題とB型問題が同数のため0%となっているが、B型問題が全体の平均程度からそれ以上(30.30~17.14%)を占めるという事実に鑑み、「B型寄り」に含めた。

引用文献

ベネッセ教育研究開発センター(2009)『生徒の学習意欲を高め、英語の力をつける方法を探る』
 清川英男(2000)「リーダビリティ」高梨庸雄・卯城祐司(編)『英語リーディング事典』東京:研究社、29-40頁
 (静岡大学・神戸市立葺合高等学校・常葉学園短期大学・静岡理科大学)